

企業名： 日油

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

分かりやすくまとめられていた。この統合報告書は、日油が目指すもの、コーポレート・ガバナンス、財務データ・会社情報の3部構成になっており、始めの「日油が目指すもの」を読むことで何を狙っているかが理解できた。これによると、この会社のありたい姿は『豊かで持続可能な社会実現のため、「ライフ・ヘルスケア」、「電子・情報」、「環境・エネルギー」の3分野において、化学の力で新たな価値を協創する企業グループ』だ。また、これを達成するための、課題や目標も書かれていた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

この会社がB to B ビジネスを行う化学メーカーであることもあり、消費者で学生の身としては、この会社の競争優位性はすぐにはよく分からなかった。しかしこの統合報告書では、日油の事業説明もされていたため、ある程度理解ができた。これによると、日油は油脂を主に扱っていて「バイオから宇宙まで」手がけており、洗剤や食品、薬や爆薬など幅広いものの原料となるものを売っていることがわかった。日油の製品を利用して作られる製品は、必須の存在と言えるものが多く、そこにこの会社の競争優位性があるのではないかと感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

日油の製品は、食べ物を美味しくする油脂や界面活性剤など、安定した需要が今後も見込めることが考えられるため、競争優位性には持続性があると考えられる。またこの統合報告書には、日油がそれぞれの分野で今後手がけたい製品が次世代新製品として書かれていた。また日油は設備投資など成長分野への積極投資を行っており、この投資が実を結び、次世代新製品も手がけることができた場合、将来の競争優位性も安心できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私がこの会社に入ったとき、具体的にどのような能力が向上できるかは、正直よく分から

なかった。この統合報告書には、人材の能力開発についても書かれていて、社員が自らの意思で研修メニューを選べること、専門性向上や職務遂行のための研修があることなど、能力開発制度を多角的に推進していることが書かれていた。しかしこれだけでは、私がこの会社に入社したとして実際にどのようなスキルを身につけることができるのか、どのように人的資本の価値向上ができるかを想像することは難しいと感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

この統合報告書は、全体的によくまとまっていて分かりやすかった。強いて改善点を上げるとすれば、文字が小さすぎる場所があった。そのページに存在する文字数が多すぎると、多くの情報を詰め込める一方で、読むのが面倒に感じてしまう側面がある。他には読む人によっては、カタカナの横文字が多いと感じるのではないかと考えた。慣れていけば問題ないが、横文字の単語は分かりにくいと感じる人や、胡散臭さを感じてしまう人が一定数いることをもう少し留意するべきかもしれない。